



その想い



☆ 護国寺の御札、復活しました！

先代住職が長年に渡り属星供のお札を配らせてもらっていましたが、この度、装いも新たに手作りの御札が仕上がりました。ご家庭のお仏壇内外、玄関、柱等にお納めください。



●上の赤い真四角のハンコは篆刻と呼ばれる石のハンコです。住職がデザインしたものを当寺檀家の中山健さんに掘っていただき、一枚一枚押しております。

真ん中の字はカーンマンと呼び、梵字の二字が一つになって不動明王を表します。両脇の字体は篆書体（てんしょたい）といい、古代中国の印字体です。右側から読むと『見我身者 発菩提心』（我が身を見るものは菩提心をおこす）という意味になります。

●この御影は、当寺の本尊不動明王を昭和4年に写し彫ったもので、先々代住職であった山岡晃英和尚の甥御にあたる山岡政雄様が、長らく所蔵されておられました。しかし平成25年1月に政雄様が逝去され、御子息の山岡宜彦氏の御厚意を以て、当寺に還座される運びとなりました。

縦62cm、横25cmの大きさの原板を紙に刷り、当寺檀家のセルクルデザイン工作室岩本やよいさんのお力を借り、デジタル化して縮小したものです。土佐国大瀧山とは護国寺の山号です。

●字は住職が手書きしたものを印刷しています。

●緑の字は平成28年度の干支であるヒノエノサルと書いています。

●そして、なんと紙はすべて仁淀川の和紙で出来ています。紙を漉いていただいたのは、土佐市新居に御座す、当寺と同じく本山修験宗の池浦寺後嗣の田村啓寛さんです。啓寛さんは土佐和紙を現代に伝える一流の職人さんとしても活躍されています。

☆ 大瀧山でヨガをする日、無事終わりました

先月22日（日曜日）に加茂大瀧山の山頂においてヨガを行いました。加茂弘岡在住の山本順子先生を講師に迎え、初心者でも無理なくできて、芯から心地よくなれるヨガが総勢19名で開かれました。

前日まで天候がどうなるか怪しく心配しておりましたが、老若男女晴れ男晴れ女の参加者の方々に恵まれ、その日一日は雨が降らず、また転落やケガなども無く、気持ちよく下山することができました。

9時過ぎに護国寺を出発し、10時頃山頂に着き、そして10時半から12時までヨガ。各自持参のお弁当を食べて、13時から14時半の下山まで山頂付近の散策や、自由瞑想という日程でした。

私にとって初めての企画であり、不安も多々ありましたが、山本先生にアドバイスをいただき、また、同じ宗派の大先輩が草刈りに駆けつけていただいたり、周囲の力に助けられて自分も精一杯準備に奔走できました。

何故、大瀧山でヨガをやろうと思ったか？ その理由は、そもそも護国寺は、1300年の歴史を持つ修験道その一寺院であり、修験道とは本来が大自然の山中に入り、そのなかであらゆる生命の営みに神や仏を見出し、自身を見つめ直し、験徳を顕すという宗教活動を成すものでした。

しかし、近年日本各地の里山は荒廃が進み、豊かな自然の営みは重たい影に覆われています。そんな中、我々修験道の僧侶は、ただ習わし通りに山に入り、そこに神仏を崇めるという行為だけでなく、自然の再生を手助けする活動も視野に入れるべきではないかと私は考えております。

その活動の第一歩として、まずは広く山のことを知ってもらうところから始めようというのがこの行事の狙いでした。次回はドウダンツツジの咲く4月に予定しております。興味のある方は是非お問い合わせください。



小屋の中のキクガシラコウモリ